

中野新之祐教授退任記念号の発刊に寄せて

2018年3月にて定年を迎えられご退職された中野新之祐先生の本学におけるご貢献をたたえ本記念号が企画されました。小文では中野先生のご経歴と本学でのご活動について紹介し、長年の功績に感謝の意を申し述べたいと思います。

中野先生は、1971年に東京大学教育学部教育学科をご卒業後、同大学院教育学研究科の修士課程、博士課程で学び、研究の道に進まれました。その後東京大学教育学部の助手、昭和女子大学短期大学部の専任講師、助教授を経て1996年4月に本学経済学部教授としてご着任されました。以降22年の長きにわたり教育・研究活動にご尽力され、その功績をたたえ2018年5月14日に名誉教授の称号を贈らせていただきました。本学においては「教育学」「教育原理」をはじめ教職関係の科目を担当され、教職課程の維持・運営に大きく貢献されました。「総合教育演習」においても数多くの履修学生を指導され、近年では「子ども・青年・学校・家庭・社会・教育」というタイトルで子どもが成長・発達していく中での日本社会における様々な問題状況についてディベートし課題を深める授業を展開されていました。

一方、中野先生は学内行政においても様々な役職・委員を歴任されました。2000年4月から2年にわたり出題委員長を、2010年から2年にわたり学生委員長を務められました。近年は、2014年から2期4年にわたり東京経済大学体育会の副会長として学生支援と本学の学生スポーツ振興に尽力されました。中野先生はその柔和なお人柄で学生、教職員に接され、2002年度には委員長を務められるなど、教職員組合活動においても大きな存在でした。

中野先生のご専門は、教育学、教育史、なかでも日本の民衆の教育の心性史、高度経済成長が及ぼした教育への心性の変化をテーマとして取り組まれていました。2005年4月より1年間国内研究員として研究を深められ、その成果は『人文自然科学論集』126号に「高度経済成長期における都市部伝統産業地域の子どもの職業選択と学校」として公表されたほか、編著の『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族』（2011年大月書店）に結実しています。ご担当の教育原理に関するテキストも編まれており（『やさしい教育原理』有斐閣アルマ）改定を重ね2016年には第3版を出版されています。

刻々と変化する文部行政という外部事情のもとで、またそれに携わる人員が必ずしも十分でない中で、長きにわたり本学の教職課程を支えてくださったことに重ねて御礼申し上げます。先生のご努力を受け継いで、これからも本学の教職課程が安定的に運営されるよう務めます。最後になりますが、中野先生のご健勝と研究のますますのご発展を祈念いたします。

全学共通教育センター長 新正 裕尚